

就職先は、民間が6割強 公務員16% インターンは84人が参加 卒業アンケート（下）

この3月に実施した卒業アンケートは、就職やインターンシップについても調査した。

注目の進路は、「民間会社」が最も多く226人（62%）、第2位の「公務員（教員以外）」60人（16%）を大きく引き離している。民間が圧倒的に優位であることが分かった。大学院などへの進学14人（3%）もいた。



就職活動の前哨戦として近年特に注目されているインターンシップについて、参加したと回答したのは、全体の23%に当たる84人。うち、大学紹介分が半分強の48人、残りが「就活サイトから」だった。

その経験が、就活で役立ったかについて、4割強の36人が「とても役立った」と意義を強調、残りの4割弱が「一応役立った」と評価した

就活の中で、民間企業を目指したのは、360人中の290人（62%）。「公務員（教員以外）」114人（24%）、進学15人（3%）。実際は、民間への就職が226人、公務員は60人だから、この差が、希望が実現しなかったことになる。



対象を、公務員と答えた114人の割合は、社会科学科4に対し人文コミュニケーション学科1だった。

民間への就活で、エントリーシートを提出した会社数は、「10社以内」が最も多く、全体の約半分に当たる136人。「11~20社」（84人、29%）、「21~30社」（29人、10%）となっている。

では、内定はどうだったのか。これについては、「1社」が最も多く124人（41%）、「2社」（25%）、「3社」（10%）と続いている。5社以上は、8人いた。

就職先のひとつである公務員については、志願したと回答したのは、117人。準備を開始したのは、「3年生の前期」が最も多く37人（31%）、これに次いで「3年後期」が17人（14%）、「4年前期」の15人（12%）となっている。

受験回数は、「1か所」が最も多くて33人（28%）、「2か所」32人（27%）、「5か所以上」21人（17%）。

民間の内定を辞退したかの設問については、「辞退した」が28人（23%）、「辞退していない」65人（72%）となっている。

（以上）

